

報道関係者各位

2018 年 7 月 20 日

株式会社クロエ

株式会社クリニカル・トライアル

罹患数の少ないがん種の患者は、自身のがん情報が入手しづらいと認識。

がん情報収集に関する 1,385 名の実態調査を日本臨床腫瘍学会学術総会にてポスター発表。

株式会社クロエ(本社 東京都豊島区 代表取締役 安藤 昌)、及び株式会社クリニカル・トライアル(本社 東京都豊島区 代表取締役 滝澤 宏隆)は、がん情報サイト「オンコロ」を活用し、がん患者の情報収集に関する実態調査を実施し、7 月 19 日より開催されている日本臨床腫瘍学会学術総会にてポスター発表を行いました。

がんに関する情報収集は、がん患者の重要な課題の一つであると言えます。医療者からの情報提供のほか、インターネットや患者交流など様々な手段がありますが、罹患数が少ないほど、進行が進むほど情報収集が難しいと予想されます。そこでがん患者とその家族の情報収集の現状を明らかにするための調査を行いました。本調査において 1,385 名のがん患者とその家族に協力いただき、今回の発表は、がん患者 576 名にフォーカスした調査結果となります。

【調査結果サマリー】

- ・罹患数が少ないがん種患者は、5 大がん患者と比べて、がん情報を収集しづらいと感じていました。
- ・ステージ 4 患者は、ステージ 1～3 の患者に比べて、情報を収集しづらいと感じていることはありませんでしたが、治療前の医師からの情報提供は不十分と感じており、治療環境は良くないと感じている傾向がみられました。
- ・医療機関の専門性と規模によって、治験情報へのアクセスに差がある傾向がみられました。

がん情報サイト「オンコロ」では、この結果をもとに、今後、罹患数の少ないがん種の情報配信を強化するとともに、関係各所と協力し、医療施設だけではカバーしきれないがんの情報提供を支援してまいります。

【調査手法】

目的：がん患者およびその家族のがん情報のアクセスに関する実態調査

手法：インターネット定量調査

実施媒体：がん情報サイト「オンコロ」(<https://oncolo.jp/>)

実施期間：2018 年 2 月 1 日～2 月 28 日

研究手法：1,385 名の回答者のうち 576 名のがん患者のみに絞り、年間罹患数の多い部位のがん種(胃、大腸、肺、乳房、前立腺；本研究上、5 大がんと定義)とそれ以外のがん、あるいはステージ 1～3 とステージ 4 で集計、その比較をカイ 2 乗検定にて検討した。

【調査結果概要】

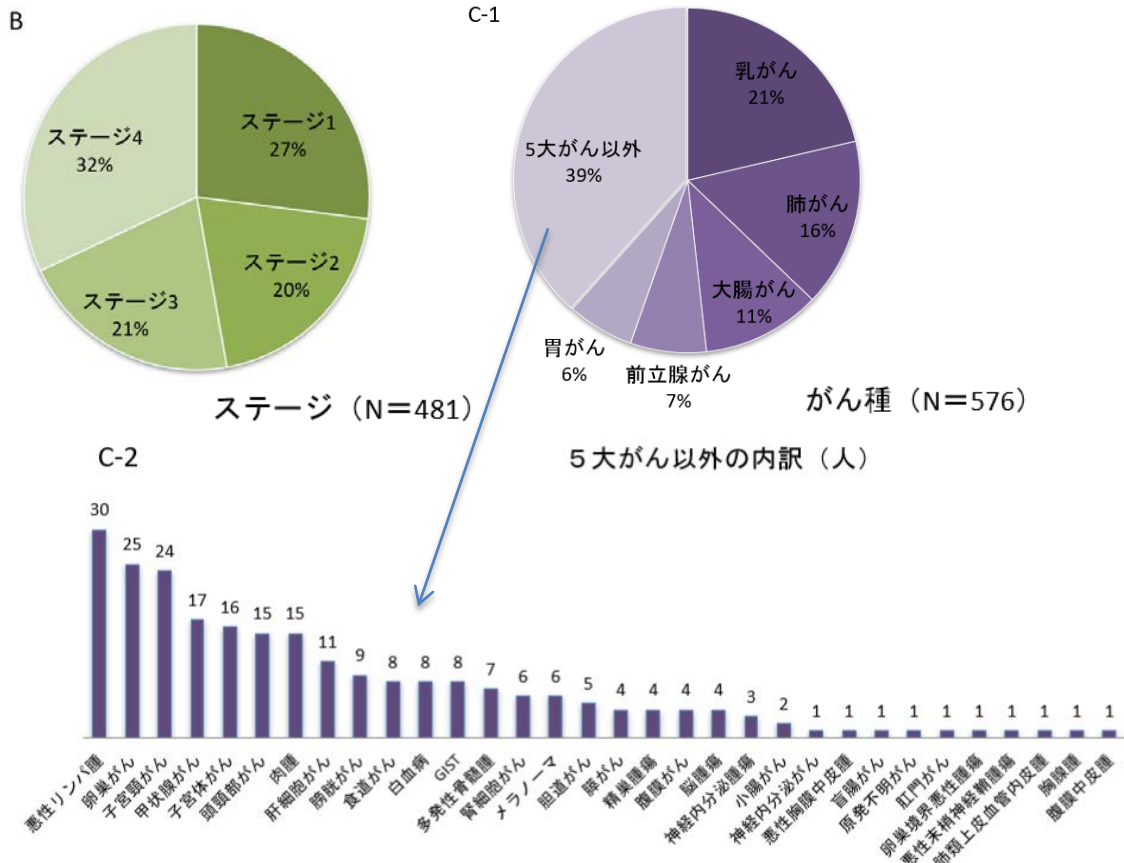
結果 1. 患者ステータス

項目	全体	5大がん	5大がん以外	ステージI-III	ステージIV
	546 (100%)	349 (60.6%)	227 (39.4%)	327 (56.8%)	154 (26.7%)
年齢	29才以下	12 (2.1%)	3 (0.9%)	7 (2.1%)	2 (1.3%)
	30代	38 (6.6%)	20 (5.7%)	19 (5.8%)	13 (8.4%)
	40代	146 (25.3%)	84 (24.1%)	62 (27.3%)	44 (28.6%)
	50代	199 (34.5%)	119 (34.1%)	80 (35.2%)	60 (39.0%)
	60代	130 (22.6%)	83 (23.8%)	47 (20.7%)	30 (19.5%)
	70代	46 (8.0%)	36 (10.3%)	10 (4.4%)	5 (3.2%)
	80才以上	5 (0.9%)	4 (1.1%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)
性別	男性	250 (43.4%)	158 (45.3%)	92 (40.5%)	123 (37.6%)
	女性	326 (56.6%)	191 (54.7%)	135 (59.5%)	204 (63.4%)
医療機関	がんセンター	85 (14.8%)	45 (12.9%)	40 (17.6%)	37 (24.0%)
	大学病院	164 (28.5%)	86 (24.6%)	78 (34.4%)	46 (29.9%)
	公立病院	176 (30.6%)	113 (32.4%)	63 (27.8%)	41 (26.6%)
	医院、クリニック等	114 (19.8%)	83 (23.8%)	31 (13.7%)	27 (17.5%)
	通院はしていない	29 (5.0%)	17 (4.9%)	12 (5.3%)	1 (0.6%)
	わからない	8 (1.4%)	5 (1.4%)	3 (1.3%)	2 (1.3%)
	わからない	8 (1.4%)	5 (1.4%)	3 (1.3%)	2 (1.3%)
がん種	乳がん	123 (21.4%)	—	—	93 (28.4%)
	肺がん	91 (15.8%)	—	—	30 (9.2%)
	大腸がん	64 (11.1%)	—	—	41 (12.5%)
	前立腺がん	41 (7.1%)	—	—	25 (7.6%)
	胃がん	36 (6.3%)	—	—	28 (8.6%)
	5大がん以外	221 (38.4%)	—	—	115 (35.2%)
	5大がん以外	221 (38.4%)	—	—	115 (35.2%)
ステージ	ステージI	130 (22.6%)	78 (22.3%)	52 (22.9%)	—
	ステージII	97 (16.8%)	73 (20.9%)	24 (10.6%)	—
	ステージIII	100 (17.4%)	61 (17.5%)	39 (17.2%)	—
	ステージIV	154 (26.7%)	103 (29.5%)	51 (22.5%)	—
区分なし、わからない	95 (16.5%)	34 (9.7%)	61 (26.9%)	—	—

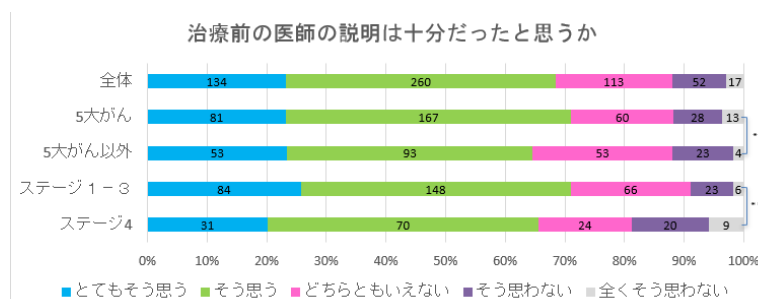
A)ほとんどの項目において、5 大がんと 5 大がん以外、ステージ 1～3 とステージ 4 との差は認められなかった。

B)ステージごとにはほぼ均等な回答を得た。なお、95 名（16.5%）はステージが存在しない、わからないと回答した。

C-1, 2)37 種のがん種から回答を得たが回答数と罹患者数は相関がなかった。

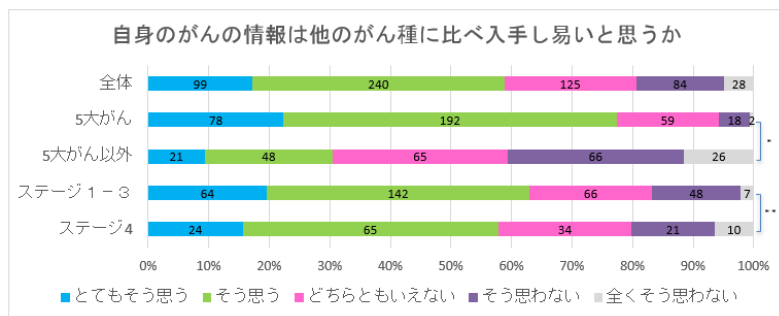


結果 2. がん患者の情報に対する認識



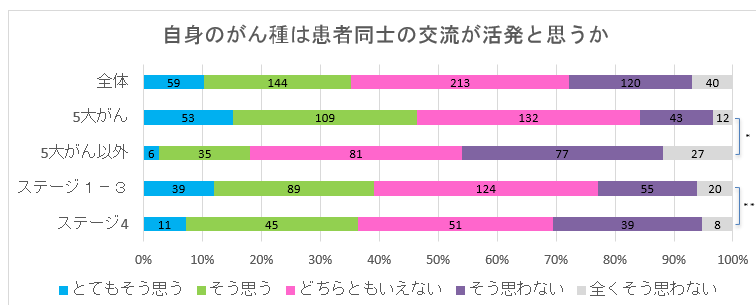
5 大がんと 5 大がん以外においては差が認められなかったが、ステージ 1～3 と比べ、ステージ 4 において治療前の医師の説明が不十分と感じていた。

(*p=0.178 **p=0.0059)



5大がん以外では、がん情報を入手するのが難しいと感じている。一方、ステージ1～3とステージ4において、差が認められなかった。

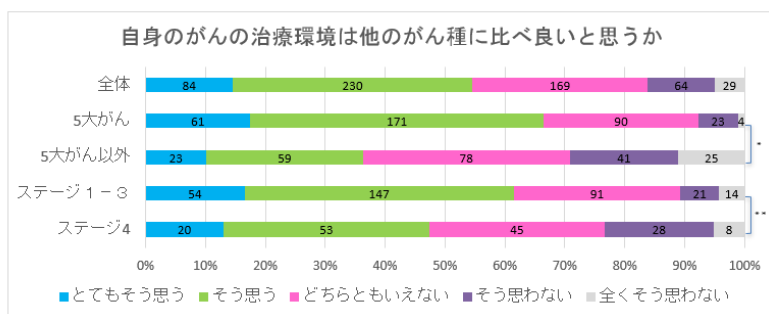
(*p<0.0001 **p=0.496)



5大がん以外では、患者同士の交流が活発化されていないと感じている。一方、ステージ1～3とステージ4において、差が認められなかった。

(*p<0.0001 **p=0.649)

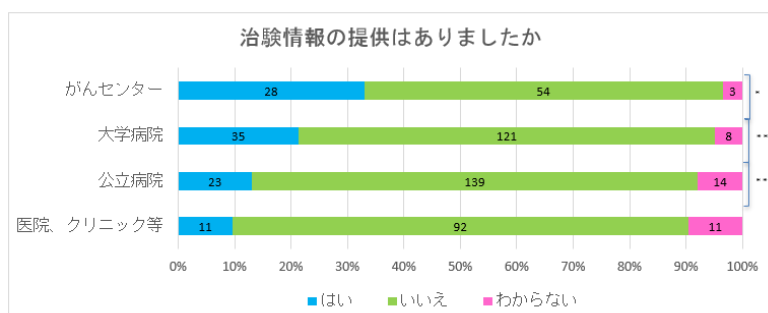
結果3. がん治療環境に対する認識



5大がん以外では、治療環境が良くないと感じており、ステージ4においてもその傾向がみられる。

(*p<0.0001 **p=0.056)

結果4. 医療機関の治験情報に関する実態



がんセンター、大学病院、公立病院、医院/クリニックの順で、治験情報の提供は減少する傾向がみられた。

(*p=0.052 **p=0.057 ***p=0.403)

なお、5大がんと5大がん以外、ステージ1～3とステージ4において、差はみとめられない。(データ揭示せず)

※本結果は、今回実施した1,385名の調査の一部であり、取得したデータは様々な解析が可能になっています。今後、様々な角度から解析を進め、新たな情報取得の実態を見出していきます。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社クロエ

グループ広報担当：野村

URL：www.croee.com TEL：03-5953-2108 Mail：pressroom@croee.com